

## 第一回嗜癖行動に対する条件反射制御法札幌研修会のご案内について

ヒトは薬物乱用の反復やコントロールを欠いた飲酒、病的賭博等を行う状態に陥ることがあり、その状態は嗜癖あるいは依存と呼ばれています。

その状態は疾病としてある程度の説明がなされていましたが、ある特定の反復した行動を今後は回避しようとする者がその行動をとってしまうという部分に関しては不可解なままにされていました。

また、嗜癖を疾病とはみなさない考え方もあり、処罰により対応しようとする態勢は多くの国に残されていますが、この態勢による効果は完全ではありません。

私たちは従来より、嗜癖あるいは依存と呼ばれる現象には疾病性があるという理解のもとに臨床に取り組んでまいりました。

しかし、その病態の理解に関しては従来のものでとどまったままでした。

その時期が長く続いた後、下総精神医療センター平井愼二医師は平成18年からの研究により嗜癖行動のメカニズムを把握し、嗜癖行動の根源となる欲求を抑制する方法を確立しました。

この方法は高い医療技術を必要とするものではなく、訓練あるいは作業とも呼べるものです。嗜癖行動のメカニズムを理解し、手順を習得すれば、嗜癖の状態にある者に対して、欲求を感じない状態になる訓練を指導できるようになります。

また、この方法はこれまでにはない新たなものですが、理論は100年ほど前にパヴロフが唱えた条件反射学説に従っており、むしろ古典的で揺るぎないものです。

この方法を私の臨床で用い、効果を確信したことから広く普及させたいと考えました。平井医師は、すでに、下総精神医療センターでこの方法について二回の研修を行い、第三回目を今年12月2日に開催します。来年2月に、平井医師を札幌の地に招き同様の研修会を企画いたしましたので、ご案内申し上げます。

ご多忙の中、誠に恐縮でございますが、皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

平成23年11月 2日

各 位

ディケアクリニックほつとステーション  
院長 長谷川直実